

【市民建設常任委員会所管分】

番号	意見・質問・要望	調査結果
1	耐震化の問題について聞きたい。	昭和56年5月31日以前に建てられた民間住宅について、耐震診断や耐震改修工事等に係る費用の一部を助成する補助金がある。また、令和7年度からは補助金の限度額を増額している。
2	大規模農道の補修工事。豊中の笠田から財田の32号線までの14キロ。	市民建設常任委員会に持ち帰って調査をして、まとめて報告する。
3	財田町の産業廃棄物処分場に関する訴訟の件について新聞報道をみた。この件については議会として意見は言ったのか。	県の調査結果では、健康や生活環境への害はないという結論であり、三豊市としては法的とれる手段がなく、委員会として、反対の意見書を提出した経緯がある。
4	昨年母が自宅で猪に襲われました。救急車を呼んだが普段は通れるはずの道が倒木等で到着が遅れた。以前市に道の整備を依頼したが整備されてないのが原因である。その後も自治会を通じて依頼するも未だ手付かず。 母の件はマスコミで軽傷と報道されたが実際は大腿骨骨折の重傷そして要介護1になってしまいました。(ちなみにマスコミに軽傷と伝えたのは三豊市である) (中略) 猪を含め害獣の件行政は市民の財産と安全を守るのが役目だと思いますが何か目新しい事を検討実施しているのでしょうか。 農作物の被害も増える一方です	ご指摘のあった道の倒木や土砂等については、早急に撤去し、通行に支障が無いよう対応すると担当課より聞いている。 イノシシの件については、被害が発生した日に議会も報告を受けているが、報道発表の時点では、負傷して病院治療中であり、詳細は不明であると伝えた、と聞いている。 イノシシ等の有害鳥獣の対策については、毎年捕獲奨励金や防護柵設置に対しての補助を行っているほか、狩猟免許取得に対しての補助を行い、捕獲等の駆除活動に取り組んでいただける、狩猟免許所持者の確保に努めていると、報告を受けている。
5	観音寺の高屋神社への道の整備は三豊市が実施しているのでしょうか。	高屋神社へアクセスする林道稲積山線は観音寺市が、林道豊中七宝山線については管理者である三豊市が、それぞれ保全管理を行っている。

番号	意見・質問・要望	調査結果
6	近年三豊市ではメガソーラー整備が盛んです。特に海のそばに近く幹線道路に近い詫間カントリークラブというゴルフ場の跡地に東洋炭素がメガソーラーを作る計画があります。メガソーラーは雇用を生まず、強風や土砂災害で周囲に危害が及ぶ場所もあると聞きます。災害の危険性が高い場所や企業が立地しやすい場所でのメガソーラーは三豊市の条例などで禁止することはできないですか？	太陽光発電施設は、脱炭素社会の実現に向けた国のエネルギー政策の中でも重要な役割を担っている一方で、災害リスクや周辺環境への影響、住民の安心・安全への十分な配慮も必要であることから、本市では、香川県が策定している「太陽光発電施設の設置等に関するガイドライン」と緊密に連携・協力し、適切な設置・管理の推進に努めている。 また、太陽光発電の設置は国の政策と深く関わっていることから、市独自のガイドラインや条例整備については、地域の実情や法的な制約を踏まえて慎重に検討していく。
7	観音寺市の高屋神社につながる林道は三豊市が税金で負担し維持管理をしていると聞きます。恩恵があるのはほとんど観音寺市です。維持管理費を観音寺市が負担していないのなら観音寺市が負担するべきだと思います。	高屋神社へアクセスする林道稲積山線は観音寺市が、林道豊中七宝山線については管理者である三豊市が、それぞれ保全管理を行っている。 豊中七宝山線は、今年度に維持管理修繕作業を行う予定で、費用については県の補助金に加え、観音寺市と連携協定を締結し、一部を負担していただく予定と報告を受けている。
8	三豊市第二次総合計画後期基本計画によると、三豊市が大切にしている三本柱は ・健康・教育・三豊市独自の脱炭素社会 となっており、三豊市民としてとてもしっかりくる計画であると感じています。 その理念は、SDGs未来都市計画や、オーガニックビレッジ宣言の中でも貫かれていますし、3月にできた観光基本計画のビジョン、ミッションでも美しい風景や自然を未来へ残す、ということがうたわれています。 市民アンケートでも、三豊市の強みや誇りに思っていることの一位は、美しい風景や自然であるとお聞きしています。私もそう思っておりますし、そんな三豊市を誇りに思います。 風景や自然を大切にするための具体的な方策を知りたいです。	美しい風景や豊かな自然環境を次世代に継承するため、生物多様性の確保を重視した施策を進めている。具体的には、森林の再生に取り組むとともに、若者世代を中心に環境意識を高めることを目的とした植林プロジェクトを推進しており、また、瀬戸内海に広がる藻場や干潟などの豊かな海洋資源を保全するため、産官学が連携する「瀬戸内渚フォーラム」に参画し、ブルーカーボンの創出にも取り組んでいると聞いている。

番号	意見・質問・要望	調査結果
9	「三豊市独自の脱炭素社会」とは、具体的にどのようなものなのでしょうか？	「三豊市独自の脱炭素社会」とは、単に創エネ、省エネ、畜エネの推進にとどまらず、より広範な視点で環境と調和した持続可能な社会の実現をめざすもので、具体的には、生物多様性の確保を重要な柱とし、市内の豊かな自然環境の保全に努めることで、グリーンカーボン(森林や植生によるCO2吸収)やブルーカーボン(沿岸域や海洋生態系によるCO2吸収)といった自然の吸収源を強化し、温室効果ガスの削減だけでなく、将来にわたって健全な自然環境を守り続けることを通じて、持続可能な脱炭素社会の実現をめざす取り組みと聞いている。
10	「圃場整備」というワードを聞くことがあります。 それはどのようなものなのでしょうか？ 上記の三豊市の理念に合致するものなのでしょうか？ メリット・デメリットについて、フラットにお聞きしたいです。	ほ場整備とは、耕地区画(田・畑等)や用排水路、農道の整備、耕地の集団化を行うことによって、農業の生産性の向上、農業構造の改善を図る目的で行われており、農業を振興する三豊市においては、重要な事業である。 メリットについては、上記記載のとおりだが、デメリットについては、国・県・市の補助金、地元の負担金によって整備を行うので、整備後の農地については、制約(農地の転用等)を受けることとなる点である。
11	三豊市第2次総合計画後期基本計画で三豊市が大切にしている三本柱は、市の施策全部に対して基調にあるというか、1番この元になる部分に置かれるべきこと。学校の建設や市民センター詫間整備事業、スポーツ施設等でも、緑化を進め、コンクリートばかりにせず、緑の部分を増やす、学校の屋根にソーラーパネルを設置し、新しく建設する市の建物はZEBにする等、様々なところで活かせるものである。今はまだそれが生かされておらず、三豊市が推し進めるという強い表現にはなっていないので、仕組みとして、それを全部組み込んでいくことを考えて、行政全般に対して、通底させて取り組んでほしい。	いただいた提言は貴重なご意見として承り、議会としても調査していく。

番号	意見・質問・要望	調査結果
12	4パーミル・イニシアチブといった、植物残渣を炭化させ、その炭素を地中に蓄えていくことや不耕起草生栽培と有機物投入によって炭素を土の中に貯留することで、世界の土壌の表層の炭素量を年間0.4%増加させることで、人間の経済活動によって発生する大気中の二酸化炭素を実質ゼロにすることができるという考え方もあるそうなので、オーガニックビレッジ宣言も含めて、農業の面でも地球温暖化対策を推進してほしい。	いただいた提言は貴重なご意見として承り、農業分野でも対策できることがないか、議会としても調査していく。
13	気候変動や生物多様性について、市民全員で取り組むように普及すべく、市の広報等でどんどん記事を載せていくべき。	三豊市独自の脱炭素社会は、今年度の施政方針の3本柱の一つであるので、市民の意識を醸成する手段の一つとして担当課に伝えていく。
14	街路樹はその町の温度を4度近く下げる効果もあるといわれており、町の緑化にも貢献するので、安易に伐採せず、生かしていったほしい。	街路樹の管理について、貴重なご意見として承り、議会としても調査していく。
15	観音寺の高屋神社へつながる林道は三豊市が整備しているとのことだが、現状ではメリットがあまりない。三豊市のバスを使ってもらうなど、観音寺市に働きかけをして、何らかのメリットがあるようにならないか検討してもらいたい	林道の整備費用については、観音寺に一部負担していただく協定を締結したと報告を受けている。
16	老朽化インフラ対策について計画が示されない。	市道や農道については、市民からの要望を受けて予算の範囲内において担当課で対応している。
17	道路舗装が悪い。	
18	地域で高齢化が進んで休耕地が増えた。地域の祭りも高齢化して世話人だけの祭りになっている。空き家も問題だ。	休耕地や空き家問題については委員会としても所管事務調査事項として調査しており、調査研究をして執行部に提言を行っていく予定である。
19	休耕地対策、空き家対策のこれからについて	